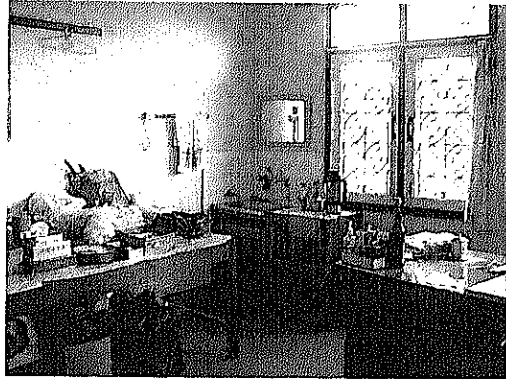
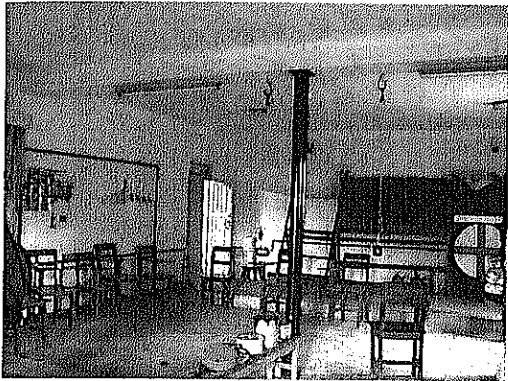


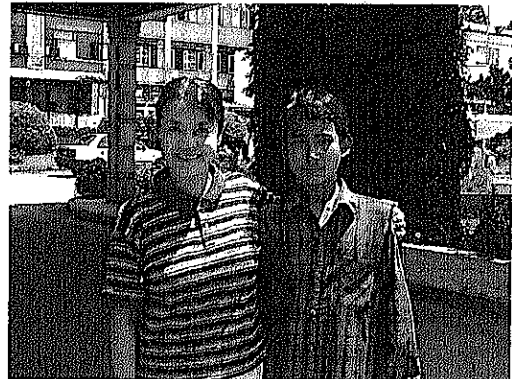
写真3 NGOで17年間活動している山根氏の診療所



選択教科



写真4 「どこから来たの？」とひとなつこく話しかけてきた18歳の青年（上右）と、物売りをする少女たち（上左）。JICAのバス運転手の助手の少年と一緒に（下右）



水墨画の表現を通して自分たちの文化や生活を外国に紹介しよう

MURAKAMI KAZUE

村上 一恵

愛媛県松山市立津田中学校

美術のねらい

墨・筆・和紙という素材はおもしろい。水墨画の授業では、にじみ・ぼかし・かすれといった素材独自の効果は、生徒たちには新鮮に受けとめられる。水墨画には、東洋独特のおおらかな自然観と人生観が、さまざまな技法で表現されている。そこには、今の日常にはない、精神性が前面に押し出された空間が感じられる。

これからの美術の鑑賞の指導においては「美術と人間とのかかわり」という観点と、世界の中の日本という立場から開発途上国にも眼を向け、地球上すべての民族・風土に視点をおく必要がある。墨と筆で遊ぶ「墨絵」から発展させ、自分の個性や思いを込めて表現する「絵手紙」を制作し、ネパールの同世代の生徒と交流をはかりたい。

授業の展開

実施科目 学級活動・道徳・美術、対象 中学2年（1クラス34人、10時間）

1. 学級活動「権利の熱気球」
（「わたし出会い発見」大阪府同和教育研究協議会編より）（1時間）
2. 学級活動「字を識ることは生きるということ・字が読めないとどうなる？」
（「わたし出会い発見」大阪府同和教育研究協議会編より）（1時間）
3. 学級活動「未来を映し出す波紋」
（「中学校国際理解ファックス教材集」明治図書

より）（1時間）

4. 学級活動「ネパールってどんな国？」（教師による体験発表）（1時間）
5. 道徳「ヒマラヤの子ども」
（「生きる力」大阪書籍）（1時間）
6. 美術・鑑賞「水墨画の世界」（1時間）
7. 美術・鑑賞「サパナ（夢）ネパールの友だちの作品」（1時間）
8. 美術・表現「絵手紙をかこう・伝えよう！日本」（3時間）

授業の展開

6時限目

水墨画の世界

水墨画の作品を鑑賞し、アジア諸国の伝統文化に関心を持たせ、その美しさを発見でき、味わえるようにする。

1. 日本美術の流れの中で、日本独自の文化や美術が芽生えたことを理解する。
2. 水墨画の歴史の流れをつかむ。
3. スライドを見ながら作品を鑑賞する。

7時限目

ネパールの友だちの作品「サパナ（夢）」

ネパールの学校で理数科を教えている、青年海外協力隊員の小野寺歩美氏より送っていただいたネパールの生徒の作品を通して、鑑賞活動を行う。作者の心情や生活環境、気候・風土の背景を考

えることで、美術作品は、言葉や民族を超えて交流できる人類共通の表現であることを理解する。

1. 開発途上国について知っていることを出しあい、関心を高める。
2. 同年代の生徒作品であることだけを知らされ、作品を鑑賞し、どのような国や風土であるかなどを推測しながら作品に親しむ。(写真1)
3. 作者の心情や表現方法など気づいたことや疑問に思ったことをまとめる。
4. 作品を送ってくれた青年海外協力隊員・小野寺氏の手紙を読み聞かせる。
5. 作者の環境や国の様子を考えながら、言葉や習慣の違う人とも美術作品によって交流ができることを理解する。

ネパールから送られてきた絵は、画材の扱い方や画面の構成も上手くはない。小野寺氏の勤務する学校では画材が不足しているため、絵を描くことそのものが生徒にとって身近ではないからだという。鑑賞する日本の生徒には、そうした現地の制作環境も想像させた。

8~10時限目

絵手紙をかこう・伝えよう！日本

「自分が伝えたい日本」をテーマに「絵手紙」を制作し、ネパールの同世代の生徒と交流をはかる。

ネパールの生徒作品の鑑賞を通して、生徒たちは美術作品は言葉や民族を超えて交流できる人類共通の表現であることを理解しつつある。また、ビデオや写真資料を通して開発途上国の現状を理解し、主体的に世界の現状を知ろうという姿勢が育ってきている。

1. 墨・和紙・筆を使い、水墨画の体験をする。
筆使いによって、色と形が同時に表現できることなどを学ぶ。
2. グループごとに「日本」を表現するキーワードを集める。
3. キーワードをもとに、自分の絵手紙のテーマ

を決定する。

4. アイデアスケッチをする。
5. 本制作。
6. 作品鑑賞と自己紹介文の作成。
7. 作品を送付する。

集めたキーワードは「日本の文化」「日本の地理」「日本の食べ物」など大きくグルーピングする。

生徒の反応

生徒たちは墨や和紙の味わいを大切にしながら制作にとりくんだ。「日本の中で、何を伝えればいいのだろう」と悩んでいる姿もみられたが、「さくら」「かき氷」「こけし」など日本らしいモチーフや、動植物、家の中の様子を描き、英語で説明を加えて絵手紙を完成させた。

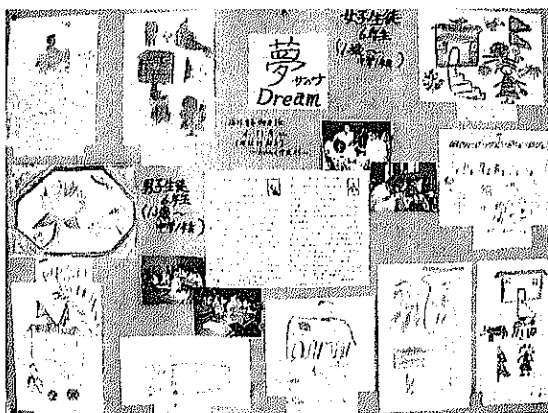


写真1 ネパールの中学1年の生徒が「夢」をテーマに描いた絵

成果と課題

小野寺歩美氏のほかネパールの青年海外協力隊員の協力で、カトマンズ市内のろう学校の生徒にこの絵手紙を送ったところ、ネパールの生徒たちから返事が届いた。生徒たちは今度は自画像などを描いて2回目の絵手紙を送った。できれば来年度も継続したいと考えている。

国際理解教育の視点でとりくんだ 「英語クラブ」

SATO MIDORI
佐藤 みどり

熊本県宇土市立鶴城中学校

研修の振り返り

今回の研修に参加して印象深かったのは、中国の人のおおらかな姿勢や、子どもたちの物や人を大切にできる心にふれたことだった。日本のように物のあふれ返る環境で生活していると、大人でもつい甘えがちになる。アジア諸国について理解を深め、中国の人の生きるパワーを生徒に感じ取ってほしいと考え、比較的自由な活動のできるクラブや、生徒自身の課題を尊重する「総合的な学習の時間の活動」を通して、国際理解教育にとりくんだ。

結果の活用

1. クラブ活動でのとりくみ

私の指導する「英語クラブ」は、全学年を対象にした、40人ほどのクラブだ。

一学期は英会話や英作文を書いたり、使用済みテレホンカードを収集するボランティアが主な活動だったが、研修後、中国の紹介などを取り入れたところ、他の国のことも知りたいと主体的な活動が一気に広がっていった。インドネシアの人を招いて料理やダンスを習ったり、外国語指導助手(ALT)に出身国のカナダのことをたずねる活動に発展した。

活動例

中国語に親しむ(45分)

1. 中国語の意味を予想したり、読んだり書いたりする(図1)。
2. 中国のコカ・コーラの缶や菓子の箱を見せながら、研修で体験したこととあわせて紹介する。
3. 中国語の書かれた積み木を見て、中国語読み、日本語読み、英語では?と、その単語を読んでいった。

生徒の反応

実物を示して視覚に訴えるというのは、とても効果があると思う。中国語の書かれた積み木を実際に動かしながらの作業も楽しく取り組めた。

生徒は、「中国語は日本語と似ている」「自分の名前を中国語で何というのか知りたい」と声上がり、辞書を使った次の活動へと発展した。

中国語講座

Chinese	mù	kǒu	shǒu	ěr	bá	nǚ
English	アイ	マウス	ハンド	イヤー	エイト	ウーマン
Japanese	目	口	手	耳	八	女
Chinese	zi	yī	yōu	ri	shuǐ	yú
English	チャイルド	クロス	オア	サン	ウォーター	フィッシュ
Japanese	子	衣	又	日	水	魚
Chinese	chóng	hé	yáng	mù	yán	wén
English						
Japanese	虫	禾	羊	木	言	文
可口可木	コココーラ		緑茶		(緑)お茶	
小熊餅	コアラのマーチ		美国薯条		アメリカの味	
北京ノ峰長城	万里の長城		皮卡丘		ピカチュウ	

図1 中国語、英語、日本語を比較したワークシート

中国の武道に挑戦

中国の武道「少林寺拳法」の動きを知り、中国語版のまんがを楽しんだ。

1. 「少林寺拳法」の動きを、英語で紹介した本を見ながら、動きを実際にやってみる。
2. 中国語のまんがを日本語に訳してみる。
3. 自分の名前を中国語で調べてみる。

生徒の反応

生徒たちは「少林寺拳法」はゆっくりとした動きだが、力があること、古い歴史があることを知った。

中国語に翻訳された日本のまんが「ドラえもん」「ドラゴンボール」の言葉は難しく想像でしか訳せないところがあったが、同じまんがを中国の子どもも読んで楽しんでいることが分かったようだ。

自分の名前調べでは、家族や友だちの名前まで進んで調べる生徒もでてきて、かなり興味を持った様子だった。これが中国語を習うきっかけになればうれしい。

中国の学生と文通

研修で訪問した武陵大学で日本語を学ぶ学生との文通も、青年海外協力隊員の関氏の紹介で、始まった。

武陵大学の学生は日本語を学んでいるので、こちらからは日本語で手紙を書いて送っている。流行の歌や踊り、まんがなど若者の話題は共通なようだ。現在20人ほどが写真を交換したり、自分たちの国の流行を紹介しあっている（写真1）。

さらに、中国の学生たちの教材になればと送った、パズル形式の日本地図も大変喜ばれた。

2. 総合的な学習の時間でのとりくみ

文化祭を活用した「総合的な学習の時間」でも、「国際理解」という項目を設けて「自分たちの未来」について生徒が調べ学習や、フィールドワー

クを行った。

ねらいは、

- ・さまざまな文化と対面し、多様な考え方に接する中で、「自分」を見つめる。
- ・活動を通して得た「気づき」を出発点として、自らの疑問を「課題」に発展させる。
- ・学習の過程で「多文化共生」の意味を考えるだけでなく、自国の文化を見直すとともに、積極的に表現する能力を伸ばす。

生徒の活動例

- ・アジア各国の基本情報を調べる
 - ・アフリカの食糧難について調べる
- 食糧難にあえいでいる国の実情をレポートしたビデオを鑑賞し、話し合う。

結果と課題

クラブ活動に国際理解教育の視点を取り入れてよかった点は、授業と違い時間にゆとりがあるため、ゲームや映画鑑賞を取り入れた活動ができること、もともと興味のある生徒たちが集まるため、自主性に任せた活動が展開できた点だ。

このクラブ活動の報告をまとめた生徒のエッセイが、JICAの「中学生エッセイコンテスト」（63p参照）に入選したことから、クラブでのとりくみで国際理解教育が継続できることがわかった。また、3学期にはJICAの「サーモンキャンペーン」（62p参照）を活用した講話集会を開催した。今後は学校全体でも国際理解教育にとりくめるよう努力していきたい。



写真1 文通をしている武陵大学の学生たち

特別活動の横断的カリキュラムによる 国際理解教育のとりくみ

TAKEZAKI YOKO
竹崎 葉子

島根県松江市立第一中学校

実施のねらい

国際理解教育のねらいに迫るには、一教科の枠では難しい。そこで特別活動、社会科、英語科のクロスカリキュラムを作成しとりくんだ。

実施の経緯

実施科目 社会科、英語科、生徒会活動、学校行事（6時間）

対象 社会科および英語科は中学3年生対象、生徒会活動、学校行事は全校生徒対象（991人）

時限	テーマ/ねらい	方法/内容	使用教材
1	社会科（3年公民） 南北問題 南北問題の仕組みを理解し、わが国と大きく関わる問題であることに気づく。	開発途上国と呼ばれる国は地球上でどの地域に多いかを調べ、白地図に記入する。GNPの大きさによる地図で経済格差を知り、その原因を話し合う。	GNPの大きさによる世界地図 世界地図（白地図）
2	社会科（3年公民） 政府開発援助の現状と課題 日本が行っている援助を知り、今求められている援助について考える。	政府開発援助には、技術協力などいろいろな方法があることを知る。政府開発援助の現状を紹介した資料とビデオを観る。	JICA提供のアニメビデオ「開発途上国ってどんな国」
3	学校行事 ユニセフキャラバンキャンペーン 開発途上国の現状理解を促進し、ユニセフへの支援と国際協力への参加をよびかける。		
4	社会科（3年公民） 子どもの権利条約とネパールの子どもたち 開発途上国の子どもたちの人権が守られていないことを権利条約から伝え、自分たちにできる援助を考える。	ネパールの少年の生活事例の文章を使って、人権が守られていない箇所を探し、子どもの権利条約のどの条文が守られていないかを調べる。これまでの学習から自分たちにできる援助を考えて記述する。	子どもの人権条約ハンドブック 「ネパールのバトクんの生活」のワークシート (ユニセフ提供、インターネットでも多数検索可能)
5	英語科（3年） Sharing for Self-help ネパールの人々が自らの手で健康を守るために私たちができることは何かを考える。	ネパールで活躍する河原医師の活動を紹介した教材を読む。	教科書（明瞭堂）
6	学校行事 学習発表会 厚生委員会展		

授業の展開

3時限目

ユニセフキャラバンキャンペーン

今年度は日本ユニセフ協会の全国キャラバン隊が島根県に派遣されることになり、平成12年10月20日に、本校にキャンペーンに来ることになった。キャンペーンの目的は、開発途上国の子どもの現状理解をうながし、ユニセフへの支援と国際協力への参加をよびかけることだ。

本校の厚生委員会も企画に参加し、ネパールの子どもたちの置かれている現状、ユニセフの活動、国際協力の方法を紹介した。またネパールの水がめを運ぶ体験コーナーを設けたり（写真1）、幼児がかぜや下痢で死亡するのを防ぐ「経口補水療法」を体験した。生徒は一度沸騰させた水に砂糖茶さじ4杯と塩茶さじ半杯を入れて混ぜ、実際に飲んでみた。



写真1 ネパールの水がめを運ぶ体験コーナー。
真ちゅう製で水を入れると15キロの重さになる

生徒の感想から

・あの水を入れたつぼを、キャンペーンが終わった後、片づけるとき持ってみただけだととても重かった。あれを持って、(川で水をくんでから)山を登ると思うととてもつらい生活だと思う。それに映画を見て、トイレがなく有料だということに、とても驚いた。まず、きれいな水と環境をつくってあげたいと思う。そのためには、青年海外協力隊の人のようなことは今はできないけど、100円で16人分のワクチンが買えると聞いて援助に対する考え方を変えることができたと思う。(3年)

生徒たちは開発途上国の飢餓、貧困の問題は、自分たちの物に囲まれた豊かな暮らしと表裏一体であることに気づきつつあり、自分たちが何かをしなくてはと感じていることが伝わってきた。

6時間目

学習発表会(厚生委員会展)

生徒からは、開発途上国を身近に感じる事が、助け合いの気持ちにつながるという意見があがっていた。

これまで開発途上国の現状を伝えるために映画や、ビデオ、資料を用いたが、どれも「大変だ」という印象が強いものであった。

そこで11月下旬に全校で開いた学習発表会で、ネパールの文化や暮らしなどを紹介した(写真2)。生徒に開発途上国に対して親近感、興味を持たせることを第一のねらいとし、「行ってみたいな」「ネパールの子供と文通したいな」というような気持ちを持ってほしいと願った。さらに、自分たちにできる援助を考えるために、ユニセフ展も行うことにした。

展示内容

1. 「ネパールってどんな国？」

<写真で>

- ・ネパールの首都カトマンズの様子
- ・ネパールの衣食住の文化紹介
- ・ネパールの子どもたち
- ・ネパールへの日本からの援助～青年海外協力隊、教科書印刷機、空港整備工事など

<実物で>

- ・サリー、クルタスワル(パンジャビドレス)などの民族衣装
- ・カーペット
- ・国旗・地図・新聞・お金・教科書

<ビデオで>

- ・カトマンズの町並み、文化と、日本の援助(島根・出雲市立三中、伊藤美和教諭編集)

2. 「ユニセフキャラバンキャンペーン」展

- ・厚生委員の発表のまとめ
- ・ユニセフポスター展「守られているの？子供の人権(10枚組)」
- ・募金呼びかけ「ユニセフハンドインハンド」



写真2 学習発表会でのサリーの展示

成果と感想

体験的な学習を取り入れたことで、ユニセフキャラバンキャンペーンは生徒の記憶に残る会になった。ビデオや展示も方法の一つだが、国際理解の定着を図るためには、やはり体験活動を入れるのが不可欠だと考えている。

二一八オ中国

ーサーモンキャンペーンを活用した国際理解ー

UEKI FUMIE

植木 章江

長崎県時津町立時津中学校

研修のねらい

今回の研修で感じたのは、中国の都市部と農村部の経済格差だった。首都北京には巨大なビルが林立し、ファストフードの店すらある。一方、農村部は極端に貧しく、学校へも十分に通えない子どもたちがいるという。しかし、子どもたちの瞳はきらきらと輝き、素直な力強い生命力を感じさせてくれた。

研修で撮影した自作ビデオを使い、生徒が関心を示した「中国の子どもたちと学校」に焦点を絞って地方と都市部の経済格差を考えさせた。また、JICAの「サーモンキャンペーン」(62p参照)を活用し専門家によるワークショップと講話を加えることで、国際協力の意義をより深く生徒に伝えることにした。

授業の構成

道徳(3時間)、特別活動(2時間) 対象
中学2年(1クラス35人)

研修の展開

1時限目

中国に関心を持つ

生徒は中国へのイメージを発表した後、研修で収集した地図、写真、雑誌を見たり、菓子を食べるなどして、中国への興味を高めていった。

2時限目

中国のいろいろな学校について知る

中国で撮影したビデオを視聴し中国の学校の様子や現状について考えた。グループでビデオを見てわかったことや疑問に思ったことを話し合う。また、中国内の都市部と農村部の生活格差に目を向けさせる。

ビデオの内容

1. 北京郊外の流動学校(出稼ぎ労働者の子どもたちのための学校)
 - ・渋滞する道路、林立する巨大ビルから狭く立て込んだ家並みへ
 - ・倉庫を改造した校舎と教室の様子
 - ・子どもたちが語る将来の夢(医者、役に立つ人、軍人など)や、好きなこと
2. 張家界の希望工程の小学校(日本の民間団体の援助でできた学校)
 - ・地方都市の町の風景
 - ・雨の中、迎えてくれる村人と子どもたち
 - ・古い木造校舎と対照的な鉄筋の校舎
 - ・ゴム飛びで遊ぶ子どもたち
 - ・熱烈な見送り

3時限目

中国の都市部と農村部の格差を考える

前時の学習を振り返り、グループで出した疑問をクラスで共有する。さらに中国の抱える問題に

ついてその原因を考える。

生徒の疑問の例

- ・ コカ・コーラがなぜ、中国にあるのか→アメリカ製品が入ってきているのではないか。
- ・ 親の出稼ぎで子どもは学校を変わらなくてはならない→都会の方が仕事があるから。
- ・ 日本との物価のちがひ。値段が安い→物価も安いが入入も少ないのでは。
- ・ 貧しいのに笑顔の人が多く、不思議だ→経済的に豊かだから幸せとは限らない。
- ・ 勉強に力を入れている→将来への希望がある。勉強することで都会に出られる。

特別活動 サーマンキャンペーンの活用

ワークショップ「富の分配」と人権講話 「国際理解は自分理解」

この研修を通してお世話になったJICAの山下亜樹氏に、「サーモンキャンペーン」の一環として、わが校で人権をテーマに「国際理解は自分理解」と題して講話をお願いした。

その前に、担任クラスで「富の分配」のワークショップを行ってもらい、教員も参観した(写真1)。これは生徒だけでなく、同校の先生方にも「国際理解、国際協力の意義」を知るうえで、大変貴重な体験だった。

また自分自身が行った授業のまとめとしても、「国際理解→国際協力へ」という視点の移行が、生徒たちに自然に伝わったのではないかと思う(図1)。

ワークショップ「富の分配」

1. 参加者はAとBのくじ(運命のくじ)をひき、席をグループごとに分ける。
2. Aグループの人はAの袋を、Bグループの人はBの袋をそれぞれ取る。

Aの袋にはアメ1、2個、もしくは、スティックシュガー1本とアメが、Bの袋にはアメが5個以上入っており、1袋だけ豪華(今回は10

個のつながったアメ)になっている。

子どもたちから起こる驚きの声、喜びの声に混じって、Aグループの生徒の中から「どうして?」という声上がる。

3. 実はこれは世界の富の配分であることを告げる。
4. 袋を開けてどのように感じたかを発表する。
5. どのようにしていけばよいのか意見を出す。
6. 国際協力の意味、方法などの説明をする。
7. 現実には、理屈だけでなく感情が入ってくるという問題も話しておく。
8. これからの私たちはどうしていけばいいのか?何ができるのか?課題をあげる。

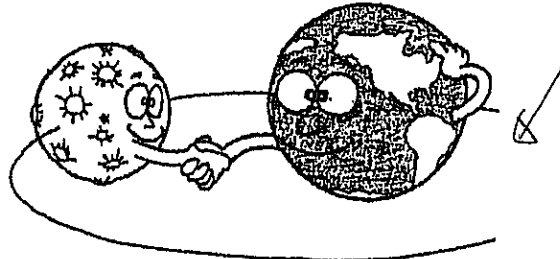


写真1 10個のアメが入った袋を取った生徒。山下氏は「他の人の袋の中をみてどう思う?」などとたずねる

成果と課題

今回、普通はなかなか訪れることのできない出稼ぎ労働者の子どもたちのための学校、へき地の学校、また、中国における政府開発援助や青年海外協力隊の活動状況の視察などができ、大変興味深く有意義なものとなった。

系統だった授業として成り立たせるにはまだ未消化ではあるが、このような機会に恵まれたこと、そして多くの方々と出会えたことは、大変貴重であった。中国の抗日戦争記念館前での中国の学生へのインタビューや、青年海外協力隊員へのインタビューも、今後何らかの形で紹介していきたいと思う。



山下 亜樹さんへ

昨日(12月4日)はありがとうございました。

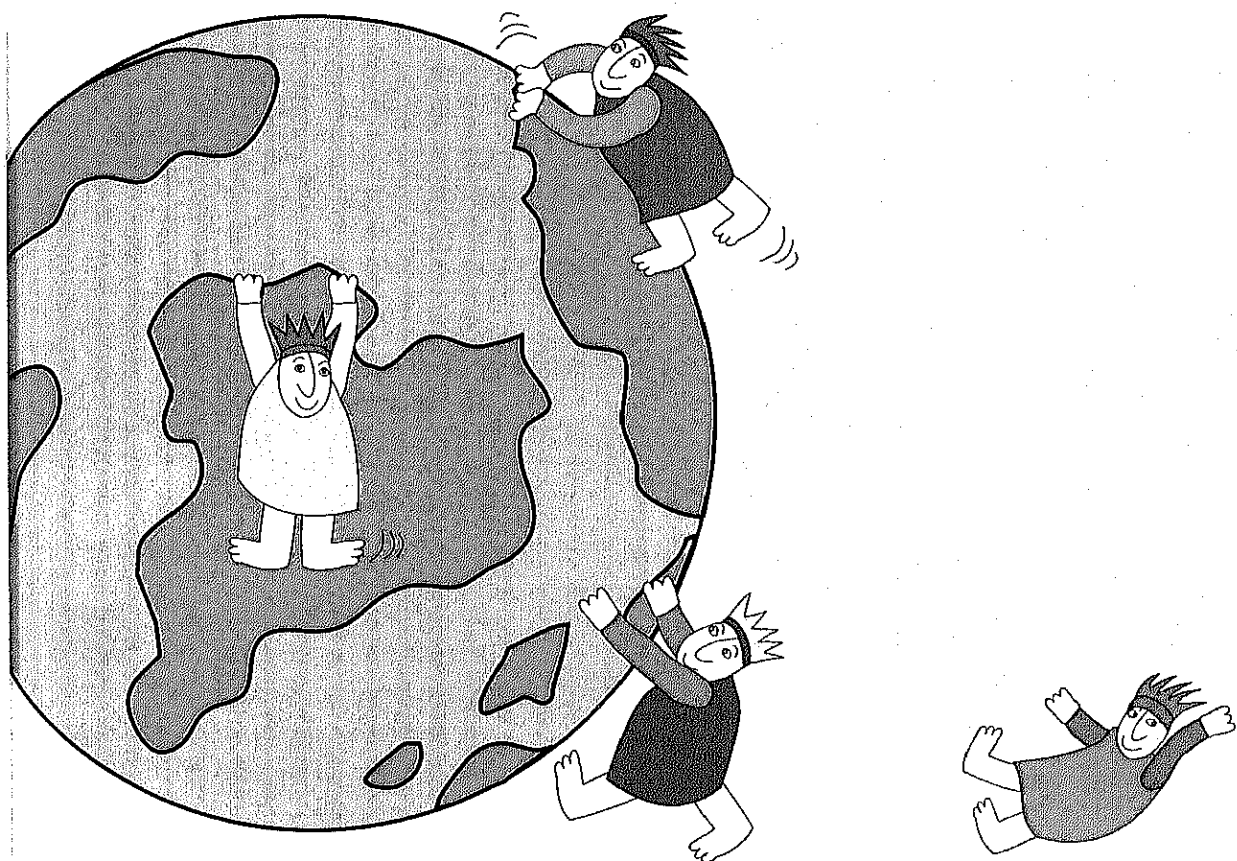
私は最初、AとBにわかれた時、Aの方が先進国だと思っ
ていたら、Bの方が先進国だと聞き、びっくりしました。

まわりの国(開発途上国)があるとは知っていたけど、4分の1だけ
が、先進国と思うと、本当に私は運がいいんだなーと少し思っ
てしまいました。私は一つしかあめを持っていなかっただけど、山本
さんが、「みんなでお分けください」と言ったら、あと、先進国だった人が、「あめ
いる」と言って、一つあめをわけくれました。こういう行動を、山
本さんたちもやっているのがなと思います。私はすごいなーと思いました。
これがちも世界のために、がんばってください。私も、帰きんぐらにし
てもらいたいと思います。

図1 ワークショップを体験した生徒の感想
(山下氏への手紙から)

第2章

參考資料



国内事前研修日程

日時：平成12年7月26日(水)～27日(木)

場所：JICA大阪国際センター

7月26日(水)

- | | |
|-------|--|
| 14:30 | 受付開始 |
| 15:00 | 開会挨拶 (JICA大阪国際センター・JICA国内事業部) |
| 15:30 | アイスブレیکنング・なりぎり自己紹介 |
| 16:00 | 開発教育ワークショップ (1) <ul style="list-style-type: none">・生徒たちの目を海外に向けるきっかけ作り・世界地図・欲しいもの必要なもの |
| 17:30 | 中学校における開発教育のとりくみ紹介 |
| 18:30 | 夕食 |
| 19:30 | テーマ別ディスカッション <ul style="list-style-type: none">・生徒の興味、関心を高めるには・総合的な学習の時間における開発教育の導入・開発教育を広めるには |
| 20:30 | ディスカッション結果発表 |
| 21:00 | 終了 |

7月27日(木)

- | | |
|-------|---|
| 7:30 | 朝食 |
| 9:30 | 開発教育ワークショップ (2) <ul style="list-style-type: none">・「コミュニケーションの達人になろう」・シミュレーション「富の分配」 |
| 10:45 | 国別概要説明 |
| 11:45 | 昼食 |
| 12:45 | 開発教育ワークショップ (3) <ul style="list-style-type: none">・開発教育とは？ (「部屋の四隅」、「開発」という言葉を使った短文作り)・手法の紹介 (ラオスを題材にした「地図パズル」「フォトランゲージ」、シミュレーション『ある村の開発』) |
| 16:00 | 国別ディスカッション
(現地視察のポイント・訪問先での対応の仕方・教材集の作成について) |
| 17:30 | ディスカッション結果発表 |
| 19:30 | 結団式 |

平成12年度中学校教師海外研修日程 **モンゴル**コース

日付	曜	時刻	研修内容	研修場所
7月26日	水	15:00	国内事前研修開始	大阪国際センター
7月27日	木		国内事前研修	大阪国際センター
7月28日	金	17:30 20:55	関西空港出発 (モンゴル航空OM9032便) ウランバートル到着	マルコポーロホテル
7月29日	土		市内見学	マルコポーロホテル
7月30日	日		終日自由行動 (ウランバートル近郊テレルジ)	マルコポーロホテル
7月31日	月	9:30 11:00 14:30 16:00 夜	在モンゴル日本大使館表敬訪問 JICAモンゴル事務所訪問 モリンオール気象台見学 第一バス公社視察 (協力隊員・専門家活動視察) JICAモンゴル事務所主催懇親会 (ゲルレストラン)	マルコポーロホテル
8月1日	火	9:00 午後 夜	ダルハンへ移動 協力隊員活動視察 (水質検査所・幼稚園) ダルハン専門家の方達との懇親会	マルコポーロホテル
8月2日	水	9:30 午後	ダルハン製鉄所視察 ウランバートルへ移動	マルコポーロホテル
8月3日	木	10:00 14:30	家畜感染症プロジェクト視察 第二病院視察 (無償援助・協力隊員活動視察)	マルコポーロホテル
8月4日	金	10:00 12:00 13:00 午後	第一中学校視察 JICAモンゴル事務所への報告 教師の方との昼食会 投融資案件視察 (馬肥育)	マルコポーロホテル
8月5日	土		終日市内見学	マルコポーロホテル
8月6日	日	11:00 16:10	ウランバートル出発 (OM9033便) 関西空港到着	

◎ 参加者 ◎

横井 宏明 (奈良県新庄町立新庄中学校・社会)

加納久美子 (大阪府八尾市立大正中学校・英語)

岩井 哲也 (兵庫県神戸大学発達科学部附属明石中学校・理科)

堀 誠克 (奈良県橿原市立白樺中学校・理科)

中西 洋 (大阪府大阪市立旭陽中学校・社会)

中江 淳子 (京都府宇治市立宇治中学校・社会)

南 眞美子 (和歌山県龍野市立立熊野川中学校・数学/技術家庭)

竹内 佳子 (兵庫県尼崎市立大庄北中学校・社会)

増田 照彦 (奈良県天川村立天川中学校・社会)

モンゴルコース

参加者感想

JICAの専門家や青年海外協力隊員の皆さんが異国の地で、熱心に活動されている姿は、大変立派だと思いました。いずれはモンゴルの人たちが自分でできるようにするためには、どう協力していったらいいかという点を意識しての活動は、大変大切だと感じました。

新庄中 社会 横井 宏明

モンゴルは貧富の差が社会主義の時より増大していることを知り、この国が独り立ちをして歩み始めるまでには、そうとうな道のりが予想されました。観光旅行では訪問することができない所を数多く視察させていただき、感謝いたします。

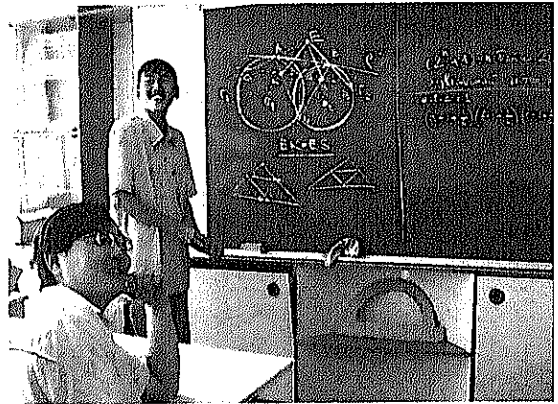
熊野川中 数学 南 眞美子

一教師として国際協力、開発援助を生に感じ深く考える機会となった。教師は知らないことが多すぎる、というのが率直な感想です。

神戸大附属明石中 理科 岩井 哲也

莫大な資金と機材を投入した現場と、ある物で工夫を重ね活動している現場。この国に、日本の最新機器は必要ないと思った。日本からの援助がなくなったら、高価な日本製品を修理したり、買い足したりできるのだろうか？疑問に思った。

宇治中 社会 中江 淳子



モンゴルの遊牧民のゲルを突然訪問できたこと、サマーキャンプ中の子どもにインタビューできたこと、中学校の先生と交流できたこと…。大収穫でした。

大正中 英語 加納 久美子

自由時間に往復16時間かけて車にゆられて行った場所は、イメージどおりのモンゴルでした。草原・山・川・馬・牛・羊…。それに反して、首都の人の多さには圧巻でした。

白樫中 理科 堀 誠克

今後の自分の生き方にさえ大きな影響を与える研修でした。

天川中 社会 増田 照彦

海外への援助や協力における現場の難しさを知ることができました。資金や物資などの制限がある中で、成果をあげておられる専門家や協力隊員のみさんの活動に驚かされました。

旭陽中 社会 中西 洋

平成12年度中学校教師海外研修日程 **ネパール** コース

日付	曜日	時刻	研修内容	会場
7月26日	水	15:00	国内事前研修開始	大阪国際センター
7月27日	木		国内事前研修	大阪国際センター
7月28日	金	11:45 15:35	関西空港出発(タイ航空TG623便) バンコク到着	バンコクのホテル
7月29日	土	10:30 12:35	バンコク出発(TG319便) カトマンズ到着	アンナプルナホテル
7月30日	日		終日市内見学	アンナプルナホテル
7月31日	月	11:00 12:30 15:30 夜	JICAネパール事務所表敬訪問 日本大使館表敬訪問 国立教育センター見学(JICA梶田専門家配属先) 懇親会	アンナプルナホテル
8月1日	火	10:00 14:00	公立小中学校見学 聾学校見学(籠協力隊員配属先) ムグリンへ移動	ムグリンのホテル
8月2日	水		終日市内見学	アンナプルナホテル
8月3日	木	11:00 午後	トリプハン大学教育病院(宇山隊員、小泉隊員) 市内見学	アンナプルナホテル
8月4日	金	10:30 16:30 18:30	バラジュ技術訓練センター見学(出井、竹中協力隊員配属先) 教育分野の専門家・協力隊員・事務所との意見交換 懇親会	アンナプルナホテル
8月5日	土	9:00 14:30	日本人補習授業校見学(授業と施設見学) 日本人補習授業校での意見交換	アンナプルナホテル
8月6日	日	13:50 18:10 23:59	カトマンズ出発(TG320便) バンコク到着 バンコク出発(TG622便)	機中泊
8月7日	月	7:30	関西空港到着	

参加者

内山 朱実 (山口県防府市立華西中学校・英語/国際理解)	石原 浩明 (鳥取県溝口町立溝口中学校・英語)
濱田由美子 (広島県沖美町立三高中学校・音楽)	才崎 知保 (岡山県岡山市立上道中学校・社会)
伊藤 美和 (鳥根県出雲市立第三中学校・美術)	山本 朝世 (広島県湯来町立砂谷中学校・英語)
竹崎 葉子 (鳥根県松江市立第一中学校・社会)	曾田 和彦 (鳥根県伯耆町立伯太中学校・社会)
竹内 吉和 (広島県広島市立安佐中学校・数学/社会/障害児教育)	井上 京子 (徳島県小松島市立小松島中学校・英語)
丸岡 澄子 (香川県高瀬町立高瀬中学校・英語)	村上 一恵 (愛媛県松山市立津田中学校・美術)
川崎 寛典 (高知県伊野町立伊野南中学校・社会)	河野 尚子 (徳島県脇町立脇町中学校・英語)
今井 典子 (高知県土佐市立高岡中学校・英語)	

今や世界最大の援助国となった日本であるが、世界的な評価は良くない。ネパールにおいては日本に対する評価が高いので安心した。我々中学教師のために有意義になるよう、学校関係を中心にプログラムを用意してもらい感謝しています。

満口中 英語 石原 浩明

「見ると聞くとは大違い」初めて開発途上国といわれる国に来た私にとって、かなりのショックがあった。同じ地球上でこんなにも差があるのか、こんなに人間の暮らしが違うのか、初めて実感したというのが正直なところである。

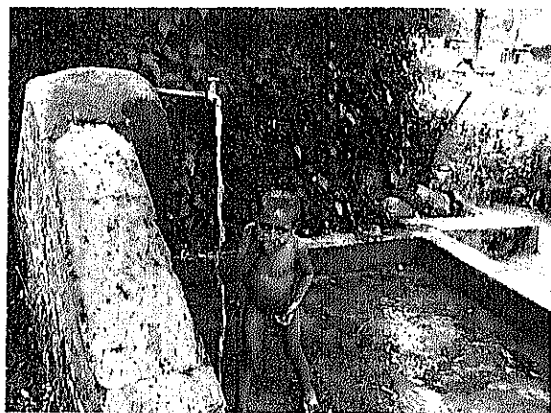
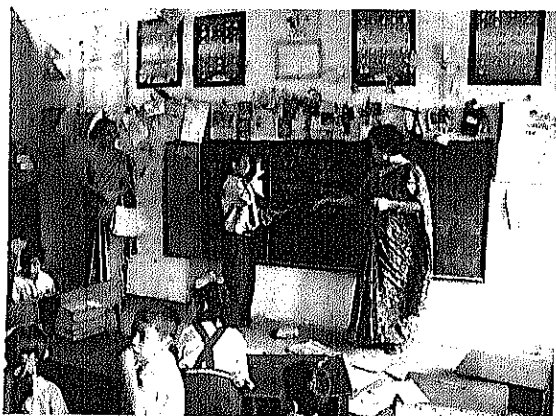
三高中 音楽 濱田 由美子

教育現場の視察が一番参考になりました。義務教育制度がないこと、ジェンダーの問題、失業問題など、個人レベルでは解決できない問題が山積みで、考えさせられることが沢山ありました。

砂谷中 英語 山本 朝世

貧しいがために教育を受けられない子どもたちの現状を目の当たりにして、日本の生徒たちへ伝えるべき使命はあまりにも大きいように痛感した。

高瀬中 英語 丸岡 澄子



人・人生・死・愛・家族・・・という人間的なことを沢山考えさせられました。一番印象に残っているのは、子どもたちの笑顔です。学校で授業をさせてただけて、うれしかったです。

脇町中 英語 河野 尚子

学校訪問で、ネパールの子どもたちにふれ、十分に整っていない教育現場の中で、目を輝かせてとりくんでいる姿や、その一日一日を精一杯生活している人懐っこい彼らを知り、私自身が描いていたネパールに対する意識は変わった。

高岡中 英語 今井 典子

日本の国際的なイメージは決して良いとはいえませんが、海外に渡った日本人の勤勉さ、優秀さは高い評価を得ていると感じ、大変有意義であった。

上道中 社会 才崎 知保

病院で活動する協力隊員の方たちの「ここでの看護経験は、日本ではほとんど生かされることはないだろうけれど、人間としての考え方や自分の人生に幅ができると思う。」という言葉が印象的だった。

小松島中 英語 井上 京子

平成12年度中学校教師海外研修日程 中国 コース

期日	日	時間	内容	研修先
7月26日	水	15:00	国内事前研修開始	大阪国際センター
7月27日	木		国内事前研修	大阪国際センター
7月28日	金	10:00 12:05 16:00 18:00	関西空港出発(日本航空JAL785便) 北京到着 JICA中国事務所訪問 JICA中国事務所主催懇親会	華都飯店
7月29日	土	9:00 午後	抗日戦争記念館視察 市内見学	華都飯店
7月30日	日		終日市内見学	華都飯店
7月31日	月	9:00 14:00	日中友好病院視察 北京消防技術訓練センター視察	華都飯店
8月1日	火	9:00	NGO活動視察・騰龍打工子弟学校、行知打工子弟学校、黄庄小学校視察	華都飯店
8月2日	水	12:00 15:30	張家界へ移動(CJ6371便) 青年海外協力隊活動視察 (湖南省武陵大学・日本語教師 関根隊員、映像 福島隊員)	金都酒店
8月3日	木		希望工程小学校視察 農村視察	金都酒店
8月4日	金		張家界市内見学	金都酒店
8月5日	土	午前 15:00	市内見学 北京へ移動(CJ6372便)	華都飯店
8月6日	日		終日市内見学 報告会(会食)	華都飯店
8月7日	月	13:50 17:35	北京出発(JL786便) 関西空港到着	

◎ 参加者 ◎

佐藤みどり (熊本県宇土市立鶴城中学校・英語)

植木 章江 (長崎県時津町立時津中学校・美術)

富田 英史 (福岡県大川市立大川中学校・社会)

廣目 美幸 (福岡県田川市立後藤寺中学校・国語)

金子マユミ (福岡県八女市立福島中学校・数学)

平良 広幸 (沖縄県城辺町立西城中学校・保健体育)

中国はスケールが大きい。その中で一人ひとりが国家のために役立とうと頑張っている。決して物質的にも経済的にも豊かではないが、それは人の幸せや豊かさにはつながらない。いろいろな生き方や価値観があること、認め合うことが大切であることを生徒にしっかり伝えていこうと思う。

鶴城中 英語 佐藤 みどり

北京を訪問し、中国という国に本当に援助が必要なのかと考えさせられました。農村地帯を見ると、やはりまだ厳しいが、北京をあれだけ発達させる力があるのなら、自国の責任として、農村地域の対策も考えるべきではないのかと思う。

福島中 数学 金子 マユミ

カネやモノを与えればそれでいいのではなく、一番大事なのは、人と人との信頼関係づくりだ。文化・習慣の異なる人間同士、お互いを理解しあう。その上に協力がなされなければ、それは「協力活動」ではないのだと感じました。

大川中 社会 富田 英史



日本から世界に飛び出して、世界発展のために活躍する協力隊員が多くいることを知り、生徒達に希望と目標を持たせるような教育計画を立てていきたいと考えた。

西城中 保健体育 平良 広幸

お金や設備を持っていくという、今までの「援助」に対するイメージが変わった。多くの人の努力が「援助」に結びついているのではないか。人と人とのつながりが、本当の交流であると感じた。

後藤寺中 国語 廣目 美幸

厳しい環境の中で、目を輝かせて学ぶ姿に、素直に感動した。私たちにできることは何だろうか？この思いをどうにかして日本の子どもたちに伝えたいと思う。

時津中 美術 植木 章江

開発教育関係団体及び教材紹介

開発教育や開発問題について、もっと詳しく知りたい方々のために、開発教育を実施している団体や、役立ちそうな教材／素材をリストアップしてみました。国際協力事業団（JICA）刊行のものは、各支部、センターにお問い合わせください。

■開発教育関係団体

特定非営利活動法人 国際協力NGOセンター (JANIC)

〒101-0054
東京都千代田区神田錦町2-9-1
斉藤ビル5階
TEL 03 (3294) 5370
FAX 03 (3294) 5398
①～③、⑤、
⑥NGO市民情報センター

特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター

〒450-0003
愛知県名古屋市中村区名駅南1-20-11
NPOプラザ3階北
TEL 052 (588) 3680
FAX 052 (588) 3680
①～⑤

関西NGO協議会

〒530-0013
大阪府大阪市北区茶屋町2-30
TEL 06 (6377) 5144
FAX 06 (6377) 5148
①～③、⑤、
⑥関西NGO大学

開発教育協議会

〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18-73
TEL 03 (3207) 8085
FAX 03 (3207) 8486
①～③、⑤、
⑥開発教育情報センター

特定非営利活動法人 国際理解教育センター (ERIC)

〒114-0013
東京都北区東田端1-14-1
岩瀬ビル
TEL 03 (3800) 9415
FAX 03 (3800) 9410
①～⑤、
⑥施設利用、カリキュラム開発など

シャプラニール=市民 による海外協力の会

〒169-8611
東京都新宿区西早稲田2-3-1
早稲田奉仕園内
TEL 03 (3202) 7863
FAX 03 (3202) 4593
①～⑤、⑥作文・小論文コンクール、
 Bangladesh 製品輸入販売

社団法人シャンティ 国際ボランティア会 (SVA)

〒160-0015
東京都新宿区大塚町31
慈母会館2階
TEL 03 (5360) 1233
FAX 03 (5360) 1220
①～⑤、⑥図書館

財団法人 国際協力推進協会 (APIC)

〒106-0047
東京都港区南麻布5-2-32
第32興和ビル
TEL 03 (5423) 0561
FAX 03 (5423) 0564
①～③、
⑥国際協力プラザ

社団法人 協力隊を育てる会

〒160-0013
東京都新宿区霞ヶ丘町15
日本青年館内
TEL 03 (3402) 2153
FAX 03 (3402) 3263
①～③、⑤、
⑥小さなハートプロジェクト

社団法人 青年海外協力協会

〒150-0012
東京都渋谷区広尾4-2-24
広尾訓練研修センター内
TEL 03 (3406) 9151
FAX 03 (3406) 9160
①～③、⑤

財団法人 日本ユニセフ協会 (ユニセフ日本委員会)

〒160-0015
東京都新宿区大塚町31-10
ユニセフハウス
TEL 03 (3355) 3221
FAX 03 (3355) 3810
①～③、
⑥図書館

社団法人 日本ユネスコ協会連盟 (日ユ協連)

〒150-0013
東京都渋谷区恵比寿1-3-1
朝日生命恵比寿ビル12階
TEL 03 (5424) 1121
FAX 03 (5424) 1126
①～⑤

- *①セミナー開催
②講師の派遣
③資料の収集・開発・提供
④スタディツアー
⑤機関誌の刊行
⑥その他

■開発教育教材

開発教育ダイレクトリー'97

開発教育ダイレクトリー'97



問い合わせ先：開発教育協議会
TEL 03 (3207) 8085
定価：¥1,428 発行：1997年

日本の開発教育を進める団体の活動を紹介した冊子。資料集や学習会、スタディーツアー、フェアトレードなど9つのアプローチを紹介。

開発教育実践マニュアル1
「開発教育」ってなあに？



問い合わせ先：開発教育協議会
TEL 03 (3207) 8085
定価：¥500 発行：1998年

開発教育についての取り組みをわかりやすく紹介した入門書的小冊子。

開発教育実践マニュアル2
わくわく開発教育
～参加型学習へのヒント



問い合わせ先：開発教育協議会
TEL 03 (3207) 8085
定価：¥800 発行：1999年

開発教育の講座や研修会などでよく用いられる参加型学習の手法を紹介。

開発教育実践マニュアル3
いきいき開発教育
～総合学習に向けたカリキュラムと教材

いきいき
開発教育



問い合わせ先：開発教育協議会
TEL 03 (3207) 8085
定価：¥800 発行：2000年

文化、子ども、環境、貿易、貧困、国際協力、識字、ジェンダーなど開発教育の12のテーマについてカリキュラムと教材を紹介。

新しい開発教育の
すすめ方



編集：開発教育推進セミナー編
発行・問い合わせ先：古今書院
TEL 03 (3291) 2757
定価：¥2,200+税 発行：1997年

テーマごとに模擬授業を紹介した、教師や社会教育現場で新しい開発教育に取り組む指導者のための参考資料。

開発教育カタログ'95

問い合わせ先：開発教育協議会
TEL 03 (3207) 8085
定価：¥1,200 発行：1995年

開発教育に役立つ本や映像、ゲームなどを紹介した教材カタログ。

開発教育のための視聴覚
教材リソースブック

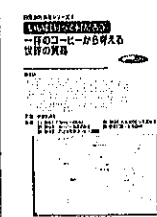
開発教育のための
視聴覚教材リソースブック



問い合わせ先：開発教育協議会
TEL 03 (3207) 8085
定価：¥800 発行：1997年

開発教育のビデオやスライドなどの視聴覚教材を紹介。

開発教育教材シリーズ②
いい貿易って何だろう
～一杯のコーヒーから
考える世界の貿易



問い合わせ先：開発教育協議会
TEL 03 (3207) 8085
定価：¥600 発行：1999年

身近なコーヒーを題材として生産国の現状と世界の流通の仕組みを理解することを目的とした、そのまま授業に生かせる教材。

開発教育実践の手引き



問い合わせ先：国際協力推進協会
TEL 03 (5423) 0561
定価：¥1,019 発行：1993年

開発教育の実践例や海外での開発教育の事情を紹介。

南北問題と開発教育

南北問題と
開発教育

南北問題と開発教育
～南北問題と開発教育の
実践事例～

問い合わせ先：田中治彦 著 亜紀書房 発行
TEL 03 (5280) 0261
定価：¥1,845 発行：1994年

開発教育の中心的課題である南北問題と国際協力、そして開発教育の理論と実践について解説。実践教材や実践事例も掲載されている。

ユニセフの開発のための
教育
地球市民を育てるための
実践ガイドブック

問い合わせ先：(財)日本ユニセフ協会
TEL 03 (3355) 3224
定価：¥100 発行：1998年

参加型の体験学習の例を分かりやすく紹介したガイドブック

ユニセフによる地球学習
の手引き
～新しい視点に立った国際理解教育

問い合わせ先：教育出版
TEL 03 (3238) 6965
定価：¥2,000 発行：1997年

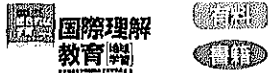
国際児童基金による「ユニセフによる地球学習の手引き」に、日本の小・中学校での実践事例を加えたもの。

フードファーストカリキュラム
～食べ物を通して世界を
見つめよう

問い合わせ先：ERIC
TEL 03 (3800) 9415
定価：¥2,625 発行：1993年

身の回りの「食」を通して世界とのつながりを説明した本

国際理解教育



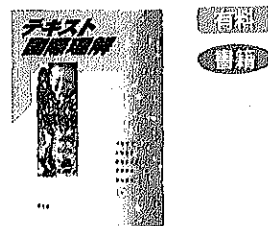
問い合わせ先：清水書院
TEL 03(3260)5261
定価：¥1,800+税 発行：1999年
「総合学習の時間」導入に向けて異文化理解、国際協力、自然環境などのテーマを現場の教師が取り組んだ実践事例集。

**国際理解教育
地球市民を育てる授業と構想**



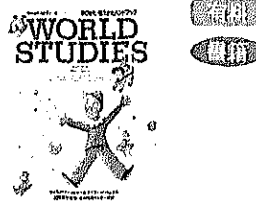
問い合わせ先：国土社
TEL 03(3943)3721
定価：¥2,200 発行：1992年
地球環境や貿易、マイノリティなどのテーマから授業を組み立てられる題材を提供。

テキスト国際理解



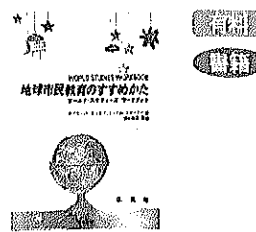
問い合わせ先：国土社
TEL 03(3943)3721
定価：¥2,100+税 発行：1997年
基本的な概念、理論的な枠組、アプローチの仕方を提示し、実践に役立つ具体例を盛り込み、教材として利用できるようにまとめたもの。

**ワールドスタディーズ
～学び方・教え方ハンドブック**



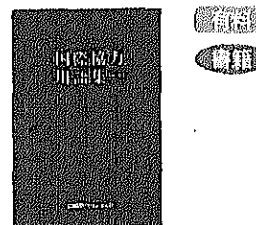
問い合わせ先：ERIC
TEL 03(3800)9415
定価：¥2,500+税 発行：1991年
国際理解教育のさまざまな事例を説明した本。

**地球市民教育のすすめかた
ワールド・スタディーズ・
ワークブック**



問い合わせ先：明石書店
TEL 03-5818-1171
定価：¥2,500+税 発行：1997年
参加型学習の実践事例集。「森林」「アボリジニー」「ジェンダー」などテーマごとにアクティビティを紹介。参考文献リストも収録されている。

国際協力用語集 第2版



問い合わせ先：国際開発ジャーナル社
TEL 03(3584)2191
定価：¥3,000+税 発行：1998年
国際協力に携わる方から初心者まで幅広く国際協力関連用語の解説書。

国際協力ガイド2002



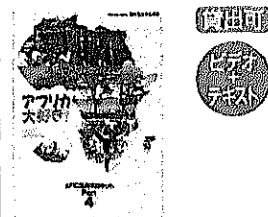
問い合わせ先：国際開発ジャーナル社
TEL 03(3584)2191
定価：¥1,200+税 発行：2000年
「仕事する」「参加する」「学ぶ」の3章で、国際協力を携わりたい人たちへ手がかりを提供する情報誌。

国際開発ジャーナル



問い合わせ先：国際開発ジャーナル社
TEL 03(3584)2191
定価：¥850
ODAと国際協力の系統的情報を網羅するわが国唯一の専門月刊誌。

開発教育キット (Part1~4)



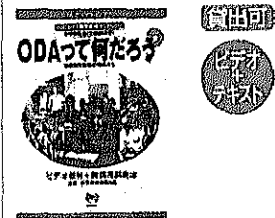
問い合わせ先：国際協力推進協会
TEL 03(5423)0561
途上国の児童画スライド(Part1)「動くアジア」スライド (Part2)「アジアのうねり」ビデオ(Part3)「アフリカ大好き」ビデオ(Part4)スライド・ビデオと教師用テキストがセットになった開発教育用の教材。

**ODA開発教育キット
世界のみんなの笑顔のために**



問い合わせ先：国際協力推進協会
TEL 03(5423)0561
小学校6年生向けではあるが、ビデオ、テキストとも分かりやすくODAやベトナム、カンボジアを例とした援助が解説されている。

ODAって何だろう？



問い合わせ先：国際協力推進協会
TEL 03(5423)0561
中米のグアテマラ、エル・サルヴァドルにおけるプロジェクトを中心に紹介し、日本の援助を分かりやすく解説。

ODA～アジアで開く未来への扉 国際協力の現場から～



問い合わせ先：国際協力推進協会
TEL 03(5423)0561
定価：¥1,500 発行：1999年
ミャンマー、バングラデシュ、タイで行われたODAの事例について、計画から完成までフォローし「顔の見える援助」を分かりやすく解説。

APIC国際協カマンガシリーズ
アリンゴと日本のママ
～アフリカでよみがえった
日本のぞうり



資料
書籍

問い合わせ先：国際協力推進協会
TEL 03 (5423) 0561
定価：¥950+税 発行：2000年
アフリカでの国際協力の例
をモデルに、現地の人々と日
本女性の心の交流を描いた
マンガ。楽しみながら国際協
力を理解できます。

国際協カプラザ



資料
定期
刊行物

問い合わせ先：国際協力推進協会
TEL 03 (5423) 0561
定価：¥500
国内外の国際協力に関わる
情報を、一般市民向けにわか
りやすく掲載している月刊情
報誌。

国際協カプラザ～国際協カ
関連機関紹介CD-ROM

国際協カプラザ～国際協カ
クイズCD-ROM



資料
CD-ROM



問い合わせ先：国際協力推進協会
TEL 03 (5423) 0561
楽しみながら国際協カのこと
を知るためのデータ。

国際理解教育ビデオ
いっしょに学ぼうシリーズ
第2弾 バングラデシュ



資料
ビデオ
テキスト

問い合わせ先：日本ユネスコ協会連盟
TEL 03 (5424) 1121
定価：¥5,000 発行：1998年
バングラデシュを題材として
参加型ワークが実践できる
ような内容となっている。

日本版ユネスコ・ピースパック

日本版ユネスコ・ピースパック



資料
ビデオ

制作：日本ユネスコ協会連盟
掲載URL：www.unesco.or.jp

小学生向けであるが、平和教
育の導入の題材として用い
るには使いやすい教材。平和、
環境のテーマで1コマの授業
が組めるようシート状のソー
ルとなっている。

地球市民を育む学習
-Global teacher,
Global learner-

資料
書籍

問い合わせ先：明石書店
TEL 03 (5818) 1171
定価：¥3,300+税 発行：1997年
地域、国土、そこに暮らす人
びと、社会・文化・自然現象、
そして過去・未来・現在の相
互関連、そして知性・感情・精
神の相互補完的な関係性を
述べた上で、学習者を中心に
据え、体験的、相互的、民主
主義的、参加型、包括的かつ
変革思考の学習アプローチ
を提唱している。アクティ
ビティも多く紹介されている。

あなたもできる
国際ボランティア

資料
書籍

問い合わせ先：ジャパンタイムズ
定価：¥1,800+税 発行：1996年
ボランティア体験談、団体紹
介、講座案内など、国際ボラ
ンティアへのさまざまな関わ
り方を紹介。国際ボランティア
に興味のある人のための
入門マニュアル。

開発教育のすすめ 南北
共生時代の国際理解教育

資料
書籍

問い合わせ先：かもがわ出版
TEL 075-432-2868
定価：¥1,942+税 発行：1996年
偏った国際化ではなくバランス
のとれた世界認識を育て
るための地理、歴史教育を実
践している著者が、開発教育
をわかりやすく解説。

食べ物から世界が見える

資料
書籍

問い合わせ先：地球市民アカデ
ミア・東京YMCA国際奉仕センター
定価：¥1,600 発行：1995年
世界からやってくる食べ物
をテーマにしてつくられたカ
ードゲームのキット。

カリキュラム改革としての
総合学習5
地域と結ぶ国際理解



資料
書籍

問い合わせ先：(株)アドバンテー
ジサーバー
TEL 03 (5210) 9171
定価：¥1,650+税 発行：1999年
国際理解のための課題を、
総合学習に解決の可能性を
みる教材集。「カリキュラム改
革としての総合学習」第5巻。

学習の転換
新しい「学び」の場の創造

資料
書籍

問い合わせ先：国土社
TEL 03 (3943) 3721
定価：¥2,400+税 発行：1997年
グローバル教育の提唱者の
一人、D. セルビー氏による
ワークショップや日本の学
校・地域で行われている参加
型授業などを紹介。
"新しい「学び」の場"のあり
方を問う。

わかちあいの教育
地球時代の「新しい」教育
の原理を求めて

資料
書籍

問い合わせ先：近代文芸社
定価：¥2,136+税 発行：1996年
個々の人格、文化を尊重し、
互いに助け合い、励まし合う
という「わかちあい」の精神、
「わかちあいの教育」に新し
い教育を見ることが出来る。

アジアの子ども

資料
書籍

問い合わせ先：明石書店
TEL 03 (5818) 1171
定価：¥1,553+税 発行：1994年
アジア各国の状況を、絵や図
を使って紹介する子ども向け
教材。

クロスロード



資料
定期
刊行物

問い合わせ先：協力隊を育てる会
TEL 03 (3402) 2153
定価：¥310
「顔の見える援助」の最前線
で活躍している青年海外協
力隊員の生の声を伝える雑
誌(月刊)。

国際協力



信託
定期
刊行物

問い合わせ先：JICA広報課
TEL 03 (5352) 5029
定価：¥600

途上国の現状やJICA事業に関するさまざまな情報を取り扱ったJICAの月刊広報誌。

JICAフロンティア

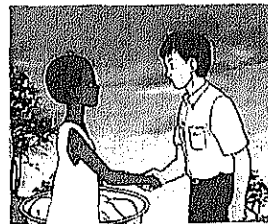


信託
定期
刊行物

問い合わせ先：JICA広報課
TEL 03 (5352) 5029
定価：¥6,000 (年間購読)

JICA事業を幅広く紹介している広報誌。読みやすく国際協力の現状を解説。

開発途上国ってどんな国？ ～小さな友情から大きな夢へ～



信託
ビデオ

問い合わせ先：JICA各国内機関
日本人の少年が途上国を訪れ、現地の生活の困難さを目の当たりにし、途上国を認識していくアニメーションビデオ。

約束

～アフリカの水と緑～

貸出用
ビデオ

問い合わせ先：JICA各国内機関
日本人の少年とアフリカの遊牧民の子供との友情を描くアニメーションビデオ

それぞれの地平線

貸出用
ビデオ

問い合わせ先：JICA各国内機関
ケニア、ブラジル、カンボジアの援助を通じて、技術協力の意義、役割を紹介。

国際協力とわたしたち 学校に行きたい！



冊子

問い合わせ先：JICA国内連携促進課
TEL 03 (5352) 5628
発行：2000年

開発途上国の現状、国際協力の仕組み、JICAの事業概要について、小学生(高学年)に分かりやすく説明したパンフレット。

JICAくんの 国際協力って知ってる？



ビデオ

問い合わせ先：JICA国内連携促進課
TEL 03 (5352) 5628
発行：2000年

日本の国際協力やJICAの事業概要について、小学生(高学年)及び中学生に分かりやすく説明したビデオ。

(12分)

JICAくんの ようこそ日本へ！ ～日本で学ぶ世界の研修員



ビデオ

問い合わせ先：JICA国内連携促進課
TEL 03 (5352) 5628
発行：2000年

JICAの研修員受入れ事業について、小学生(高学年)及び中学生に分かりやすく説明したビデオ。(12分)

中学校教師海外研修 バックナンバーの ご紹介



無料
冊子

問い合わせ先：JICA国内連携促進課
TEL 03 (5352) 5628

●授業に役立つ総合学習の手引き
平成11年度中学校教師海外研修に参加して

本研修に参加した教師の実践例を収めた教材集のバックナンバーです。詳しくはJICA国内連携促進課までお問い合わせ下さい。

開発教育教材「ワールド・ボックス」

問い合わせ先：青年海外協力協会
TEL 03 (3406) 9151
借出料金：3,000円×ボックス数
衣類は2,000円×点数

信託
物品

開発教育のワークショップでは、実際に手に取って眺め、体験できる生活用品や写真などを使用することが多くなっていますが、途上国の品物は手に入れるのが難しいのが現状です。青年海外協力協会(JOICA)では途上国の民芸品や生活用品等を収集し説明書をつけ、国別・テーマ別に箱に納めた「ワールド・ボックス」を用意しています。

物品の例



ポリビア

・マンタ(ショール)やボジェラ(スカート)などの普段着が納められています。



ヴィエトナム

・ダン・トゥルンと呼ばれるミニチュアの竹もっさんです。分解して持ち運びできます。

他にもインドネシア、バングラデシュ、タンザニア、トンガなど全部で19ヶ国の国別ボックスがあります。

あなたも参加しませんか？ 中学校教師海外研修のご案内

中学校教師海外研修は、開発途上国や国際協力の現状を、実際に教師の方々に視察してもらい、帰国後その実体験を通じて、生徒達が自主的に考え、理解していくことに役立てていただくためのプログラムです。

- 国内事前研修（約1日半）では、参加型学習の方法をいくつか紹介する講義を行います。
- 研修旅行中は、専門家や青年海外協力隊員の活動現場を訪問します。途上国や国際協力の抱える問題などを目の当たりにできる内容になっています。
- 先生同士の意見交換、情報交流の場を持つことが出来ます。

（参加者募集）

平成13年度 中学校教師海外研修のご案内



平成13年度 中学校教師海外研修のご案内

国際協力事業団（JICA）では、この夏中学校の先生方を対象として開発途上国における国際協力の現場を視察する海外研修旅行を行います。開発教育や開発途上国の諸問題に関心をもち、先生方の参加をお待ちしております。

—— 募集要項 ——

〔研修のねらい〕
地球は現在、21世紀を迎え大きく動き出しています。しかし、各地で民族紛争が激化し、自然災害も発生しています。また、環境や人口問題などの地球的規模の問題が山積しています。よりよい明日をめざし多くの開発途上国が努力していますが、特に食糧や経済の低迷などの問題は、因づくり、人づくりに大きな障害となっています。

日本は第2次世界大戦後、諸外国より援助を受け、高度経済発展を遂げるに至りました。そして経済大国となった今、国際社会の平和と安定に寄与することが求められています。国家間の相互依存が進む中で開発途上国への援助を実施することは、日本が国際社会において果たすべき責任を積極的に担うことを意味しています。

この研修はJICAが日本政府の開発途上国への援助を実施する立場から、教師の皆様が開発途上国の現状や文化・習慣を視察していただき、理解を深めていただく機会を設けることにより次の世代を担う中学生の国際感覚を養うための国際理解教育・開発教育の研究・実践に寄与することを目的としています。

〔参加資格〕

- ① 中学校の先生で、授業もしくはクラブ活動で開発教育・国際理解教育を実践されている方
- ② 海外研修に際し、経済上支障がなく、全行程参加可能な方
- ③ 年齢50歳以下の方
- ④ 所属する中学校の学校長もしくは教頭の推薦が得られる方
- ⑤ 研修後、JICAが実施する開発教育支援事業に協力可能な方

〔募集締切〕
平成13年5月10日（木）必着。6月上旬までに選考結果を通知します。

実施方法と募集

- ・毎年3～5月に、地域ごとに各国内機関で受付をします。（巻末の最寄の国内機関か、JICA本部に募集要項を請求してください。）
- ・研修は夏休みに3ヶ国（各国10名程度）に分かれて実施します。
- ・JICAは往復の渡航費とビザ代、現地視察に必要な費用を負担します。宿泊費、食事代は自己負担になります。

ご応募お待ちしております。

JICAホームページ

http://www.jica.go.jp/Index-j.html

《各種ボランティア事業》

青年海外協力隊、シニア海外ボランティア、日系社会青年ボランティア、日系社会シニアボランティアの募集案内や試験問題集、Q&Aのコーナーなど、これから開発途上の国づくりに協力したいと考えている方必見！

《セミナー開催・青年招へい事業》

開催予定の各種セミナーについての内容・問合せ先などの情報や、青年招へい事業への参加募集内容などを紹介しています。

《JICA実績》

これまでにJICAがしてきた技術協力の内容や報告、専門家・協力隊派遣実績などを、国別に紹介しています。

《途上国情報》

観光情報や生活情報、各地域の情報などを、国別に詳しく紹介しています。実際に現地で生活しているJICA関係者や専門家等の情報を元にまとめたものです。

《開発教育》

各種コンテスト募集案内と入賞作品の紹介や、教師海外研修の募集案内などを紹介しています。

また、「地球探検クラブ」では、地球の抱えるさまざまな問題（環境・人口・貧困など）について、分かりやすく紹介しています。

《地球家族》

国際協力の現状を、現地で活躍するJICA職員などのレポートを交えながら紹介する、CS放送番組「朝日ニュースター」の“地球家族”で放送された、過去4週分の内容を見ることができます。

地球探検クラブ

たちが住んでいる地球は、環境、人口増加、貧困など、さまざまな問題を抱えています。この「地球探検クラブ」では、翻回世界中のさまざまな問題を題材に、私たち何ができるのかみなさんといっしょに考えていきます。

まぐし

- 世界中で最も美しい国「ニュージーランド」 (347K)
- 大切な水と大規模なダム建設の現実 (320K)
- 世界トップレベルの国 (540K)
- 世界の未来 (384K)

画面の上でマウスを動かすと、
赤マークに変わるところがあります。

■講師派遣をご希望の方へ

サーモン・キャンペーン

開発途上国の実情を知り、国際協力の必要性を理解していただくため、JICAが職員や専門家・青年海外協力隊のOB、研修員などを講師として学校などへ派遣いたします。総合学習の時間やクラブ活動などで、世界について学びませんか？

- 派遣ご希望の方は、講師派遣希望日の1～2ヶ月前までに、お住まいの地域を担当している支部・センター（巻末参照）にご連絡ください。
- ご希望の学校には国際協力に関するビデオ貸出し、資料提供も行っております。お気軽にお問合せください。

講師派遣の対象

学校（小・中・高校・大学など）、地方自治体や国際交流団体の市民講座、NGOの学習会など

【サーモンキャンペーンとは】

鮭（サケ）が生まれた川に戻るように、途上国の現場で国際協力に携わったJICA関係者を出身校・出身地域などに国際協力を伝えるため派遣しよう、というメッセージを込めています。

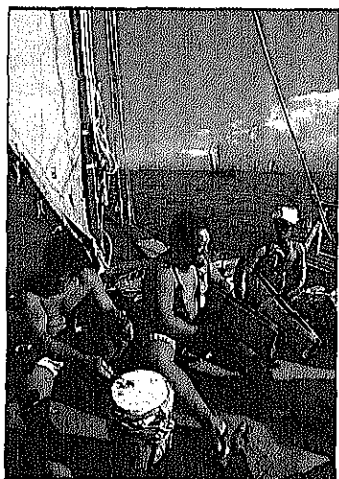
■教室で使用できる教材をご希望の方へ

フォト・ランゲージ

開発途上国の風景、日常生活、子ども達の様子などを生き生きと写し出した写真教材（A4サイズ・4色刷・5枚×7カ国で1セット）で、主に中学校・高校の参加型授業での活用を想定しています。

写真を通じて生徒同士で意見交換を行うことにより、ものごとの多様な見方に気づくこと、また生徒自身の想像力やプレゼンテーション能力を高めることを目的としています。

使用方法を説明した解説書と併せて、JICA本部・国内機関で2001年8月以降、貸し出す予定です。



JICAはこんなこともしています

お問い合わせは、JICA国内事業部国内連携促進課 TEL 03-5352-5628まで。

●中学生エッセイコンテスト

開発途上国や国際協力について考えていることを、400字詰原稿用紙3枚以内にまとめて応募してください。募集期間は5月～9月半ばまで応募資格は中学生であること。国際協力事業団総裁賞2名、外務大臣奨励賞1名、文部科学大臣奨励賞1名の計4名の特選、準特選6名、審査員特別賞5名には、副賞として約一週間の海外研修旅行。他にも、入選、各国内機関長賞などがあります。応募者全員に参加賞をさしあげます。

●メディアセンター

JICA本部に、JICAの資料・情報を一般の方に公開するスペース、メディアセンターがあります。ここでは、JICAの各種広報用パンフレット、ビデオ、年報などの関連書籍、写真などが閲覧できるようになっています。ビデオ、写真は貸し出しも行っています。また、パソコンでインターネットもできるようになっています。詳しくは、TEL03-5352-5054までお問い合わせ下さい。

●高校生エッセイコンテスト

中学生エッセイコンテストと同様のテーマで、400字詰原稿用紙4枚以内にまとめて応募してください。国際協力事業団総裁賞2名、外務大臣奨励賞1名、文部科学大臣奨励賞1名の計4名の特選、準特選6名、審査員特別賞5名には、副賞として約一週間の海外研修旅行。他にも、入選、各国内機関長賞などがあります。募集期間は中学生エッセイコンテストと同じ5月～9月半ばになります。応募資格は高校生であることです。

●高校教師海外研修

中学校教師海外研修と同様の趣旨で実施しています。所定の申し込み用紙に記入して応募してください。募集期間は新聞などを通じて案内します。

●高校生国際協力実体験プログラム

JICAの国際センターを拠点に高校生及び指導教員を招き、

約2泊3日で国際協力について理解を深めてもらう機会を提供しています。主に、JICA事業の紹介、開発教育ワークショップ、協力隊OB・OGの体験談、研修員との交流を行っています。

●大学生論文コンテスト

大学、大学院生を対象に、開発途上国の抱える課題と国際協力について論述するコンテスト。社会科学部門や自然科学部門などの領域は問いません。詳しい内容については国内事業部国内連携促進課までお問い合わせ下さい。特選・準特選に選ばれた方は副賞として海外往復渡航券をさしあげます。

●ODA民間モニター

海外の「国づくりの現場」を自分の目で見て、日本のODAがどのように活用されているのかを視察する事業です。期間は約一週間で、20歳以上の国民の方なら誰でも参加できます。詳しくは6月以降JICAホームページ等で募集します。

●青年招へい事業

開発途上国の青年達が約30日間日本に滞在し、それぞれの職業分野での研修や日本青年との交流・ホームステイを通じ、相互理解を深め、友好と信頼を培うことを目的とした事業です。プログラム中に日本の同世代、同分野の方たちとの2泊3日の合宿セミナーが催されます。いろいろな国の人たちと意見交換のできるチャンスです。

●国際協力フォトコンテスト

途上国における技術協力や交流の現場を紹介する国際協力部門と、途上国の人々の生活、自然や文化などを素材とする一般部門に分けて行われます。どちらの部門も特選には賞状と副賞を贈呈。応募作品は、本人が撮影したもので、カラープリント、単写真、サイズはキャビネ判相当。未発表のものに限ります。募集は3～6月。

年齢	20歳		30歳	40歳	50歳	60歳
	(中学校生活)	(高校生活)	(大学生生活)	社会人		
JICAの募集内容 JICAはこんなことを募集しています	中学生エッセイコンテスト	高校生エッセイコンテスト	大学生論文コンテスト			
				青年海外協力隊 (JOCV) 募集対象年齢 (20才～39才)	シニア海外ボランティア 募集対象年齢 (40才～69才)	
	(個別) 専門家登録可能年齢 (30才～59才)					
				日系社会青年ボランティア 募集対象年齢 (20才～39才)	日系社会シニア・ボランティア 募集対象年齢 (40才～69才)	
			ジュニア専門員 募集対象年齢 (25才～35才)	国際協力専門員 募集対象年齢 (35才～50才)		
	(先生方には中学教師・高校教師海外研修)					
青年招へい合宿セミナー 参加者対象年齢(20代後半～40才)						

■JICA国内機関問い合わせ先

●北海道国際センター（札幌）

（担当地域：帯広センターの管轄地域以外）

〒003-0026 北海道札幌市白石区本通16丁目南4-25
TEL 011-866-8333 FAX 011-866-8382

●北海道国際センター（帯広）

（担当地域：帯広市を含む北海道東部）

〒080-2470 北海道帯広市西20条南6-1-2
TEL 0155-35-1210 FAX 0155-36-2582

●東北支部

（担当地域：青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県）

〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町4-6-1
仙台第一生命タワービル15階
TEL 022-223-5151 FAX 022-227-3090

●二本松青年海外協力隊訓練所

（担当地域：福島県）

〒964-8558 福島県二本松市永田字長坂4-2
TEL 0243-24-3200 FAX 0243-24-3214

●筑波国際センター

（担当地域：茨城県）

〒305-0074 茨城県つくば市高野台3-6
TEL 0298-38-1111 FAX 0298-38-1119

●東京国際研修センター

（担当地域：栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京23
区内・新潟県）

〒151-0066 東京都渋谷区西原2-49-5
TEL 03-3485-7051 FAX 03-3485-7904

●八王子国際研修センター

（担当地域：東京23区外・山梨県）

〒192-0043 東京都八王子市暁町2-31-2
TEL 0426-26-5411 FAX 0426-26-9954

●海外移住センター

（担当地域：神奈川県）

〒235-0007 神奈川県横浜市磯子区西町16-5
TEL 045-751-1121 FAX 045-751-7539

●駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

（担当地域：長野県）

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15
TEL 0265-82-6151 FAX 0265-82-5336

●中部国際センター

（担当地域：静岡県・岐阜県・愛知県・三重県）

〒465-0094 愛知県名古屋市名東区亀の井2-73
TEL 052-702-1391 FAX 052-702-1397

●北陸支部

（担当地域：富山県・石川県・福井県）

〒920-0853 石川県金沢市本町1-5-3 リファーレビル3階
TEL 076-233-5931 FAX 076-233-5959

●大阪国際センター

（担当地域：滋賀県・京都府・大阪府・奈良県・和歌山県・
兵庫県）

〒567-0058 大阪府茨木市西豊川町25-1
TEL 0726-41-6900 FAX 0726-41-6910

●中国国際センター

（担当地域：鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県）

〒739-0046 広島県東広島市鏡山3-3-1
TEL 0824-21-6300 FAX 0824-20-8082

●四国支部

（担当地域：徳島県・香川県・愛媛県・高知県）

〒760-0050 香川県高松市亀井町5-1 百十四ビル13階
TEL 087-833-0901 FAX 087-837-0747

●九州国際センター

（担当地域：福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・
宮崎県・鹿児島県）

〒805-8505 福岡県北九州市八幡東区平野2-2-1
TEL 093-671-6311 FAX 093-663-1350

●沖縄国際センター

（担当地域：沖縄県）

〒901-2552 沖縄県浦添市字前田1143-1
TEL 098-876-6000 FAX 098-876-6014

■地域国際化協会一覧

都道府県	団体名	所在地	電話番号 (FAX番号)
北海道	(社)北方圏センター	〒060-0003 札幌市中央区北三条西7丁目 道庁別館12F	011-221-7840 (011-221-7845)
青森県	(財)青森県国際交流協会	〒030-0803 青森市安方1-1-32 水産ビル5F	017-735-2221 (017-735-2252)
岩手県	(財)岩手県国際交流協会	〒020-0025 盛岡市大沢川原2-4-20 岩手県立国際交流プラザ内	019-654-8900 (019-654-8922)
宮城県	(財)宮城県国際交流協会	〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎7F	022-275-3796 (022-272-5063)
秋田県	(財)秋田県国際交流協会	〒010-0922 秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館4F	018-864-1181 (018-864-0160)
山形県	(財)山形県国際交流協会	〒990-8580 山形市城南1-16-1 霞城セントラル2F	023-647-2560 (023-646-8860)
福島県	(財)福島県国際交流協会	〒960-8103 福島市舟場町2-1 福島県庁舟場町分館 2 F	024-524-1315 (024-521-8308)
茨城県	(財)茨城県国際交流協会	〒310-0851 水戸市千波町後川745 県民文化センター分館	029-241-1611 (029-241-7611)
栃木県	(財)栃木県国際交流協会	〒320-0033 宇都宮市本町9-14 とちぎ国際交流センター内	028-621-0777 (028-621-0951)
群馬県	(財)群馬県国際交流協会	〒371-0026 前橋市大手町2-1-1 群馬会館 3 F	027-243-7271 (027-243-7275)
埼玉県	(財)埼玉県国際交流協会	〒336-0002 さいたま市北浦和5-6-5 浦和地方庁舎3F	048-833-2992 (048-833-3291)
千葉県	(財)ちばコンベンションビューロー 国際交流部	〒261-7114 千葉市美浜区中瀬2-6 W.B.G マリブイースト14F	043-297-0245 (043-297-2753)
東京都	(財)東京国際交流財団	〒100-0005 千代田区丸の内3-5-1 東京国際フォーラム11F	03-5221-9000 (03-5221-9011)
神奈川県	(財)神奈川県国際交流協会	〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1 神奈川県立地球市民かながわプラザ1F	045-896-2626 (045-896-2945)
新潟県	(財)新潟県国際交流協会	〒950-0965 新潟市新光町16-4 荏原新潟ビル3F	025-285-6020 (025-283-5931)
富山県	(財)とやま国際センター	〒930-0856 富山市牛島新町5-5 インテック明治生命ビル 4 F	076-444-2500 (076-444-2600)
石川県	(財)石川県国際交流協会	〒920-0853 金沢市本町1-5-3 リファール3F 石川県国際交流センター内	076-262-5931 (076-263-5931)
福井県	(財)福井県国際交流協会	〒910-0004 福井市宝永3-1-1 福井県国際交流会館内	0776-28-8800 (0776-28-8818)
山梨県	(財)山梨県国際交流協会	〒400-0035 甲府市飯田2-2-3 山梨県国際交流センター内	055-228-5419 (055-228-5473)
長野県	(財)長野県国際交流推進協会	〒380-8570 長野市南長野幅下692-2 長野県庁内	026-235-7186 (026-235-4738)
岐阜県	(財)岐阜県国際交流センター	〒500-8384 岐阜市藪田南5-14-53 岐阜県県民ふれあい会館6F	058-277-1013 (058-272-8839)
静岡県	(財)静岡県国際交流協会	〒420-8601 静岡市追手町9-6 静岡県庁西館4F	054-221-3355 (054-251-8148)
愛知県	(財)愛知県国際交流協会	〒460-0001 名古屋市中区三の丸2-6-1 愛知県三の丸庁舎内	052-961-8744 (052-961-8045)
三重県	(財)三重県国際交流財団	〒514-0009 津市羽所町700 アスト津3F	059-223-5006 (059-223-5007)
滋賀県	(財)滋賀県国際協会	〒520-0801 大津市におの浜1-1-20 ビアザ淡海2F	077-526-0931 (077-510-0601)
京都府	(財)京都府国際センター	〒600-8216 京都市下京区烏丸通塩小路下る 京都駅ビル9階	075-342-5000 (075-342-5050)
大阪府	(財)大阪府国際交流財団	〒598-0048 泉佐野市りんくう往来北1 りんくうゲートタワービル17F	0724-60-2371 (0724-60-2377)
兵庫県	(財)兵庫県国際交流協会	〒651-0073 神戸市中央区臨海海岸通1-5-1 国際健康開発センタービル内	078-230-3260 (078-230-3280)
奈良県	(財)なら・シルクロード博 記念国際交流財団	〒630-8215 奈良市東向中町28奈良近鉄駅ビル6F	0742-27-1822 (0742-27-2434)
和歌山県	(財)和歌山県国際交流協会	〒640-8319 和歌山市手平2-1-2 和歌山県立県民交流プラザ「和歌山ビッグ愛」8F	073-435-5240 (073-435-5243)

都道府県	団体名	所在地	電話番号 (FAX番号)
鳥取県	(財)鳥取県国際交流財団	〒680-0947 鳥取市湖山町西4-110-5 鳥取空港国際会館1F	0857-31-5951 (0857-31-5952)
島根県	(財)しまね国際センター	〒690-0826 松江市学園南1-2-1く にびきメッセ2F	0852-31-5056 (0852-31-5055)
岡山県	(財)岡山県国際交流協会	〒700-0026 岡山市泰還町2-2-1 岡山国際交流センター内	086-256-2000 (086-256-2226)
広島県	(財)ひろしま国際センター	〒730-0037 広島市中区中町8-18 広島クリスタルプラザ6F	082-541-3777 (082-243-2001)
山口県	(財)山口県国際交流協会	〒753-0811 山口市吉敷3185-1	083-925-7353 (085-920-4144)
徳島県	(財)徳島県国際交流協会	〒770-0831 徳島市寺島本町西1-61 クレメントプラザ6F	088-656-3303 (088-652-0616)
香川県	(財)香川県国際交流協会	〒760-0017 高松市番町1-11-63 アイバル香川内	087-837-5901 (087-837-5903)
愛媛県	(財)愛媛県国際交流協会	〒790-0844 松山市道後一萬733	089-917-5678 (089-917-5670)
高知県	(財)高知県国際交流協会	〒780-0870 高知市本町4-1-37 丸の内ビル2F	088-875-0022 (088-875-4929)
福岡県	(財)福岡県国際交流センター	〒810-0001 福岡市中央区天神1-1-1 アクロス福岡8F	092-725-9204 (092-725-9205)
佐賀県	(財)佐賀県国際交流協会	〒840-8570 佐賀市城内1-1-59 佐賀県国際課	0952-25-7921 (0952-25-7417)
長崎県	(財)長崎県国際交流協会	〒850-0873 長崎市諫訪町5-20	095-823-3931 (095-832-2400)
熊本県	(財)熊本国際協会	〒862-8570 熊本市水前寺6-18-1 熊本県庁国際課内	096-385-4488 (096-381-3343)
大分県	(財)大分県国際交流センター	〒870-0047 大分市中島西3-1-7	097-538-5161 (097-538-5162)
宮崎県	(財)宮崎県国際交流協会	〒880-0804 宮崎市宮田町1-6 宮崎県庁東別館6F 宮崎県国際交流センター内	0985-32-8457 (0985-32-8512)
鹿児島県	(財)鹿児島県国際交流協会	〒892-0842 鹿児島市東千石町1-38 鹿児島商工会議所ビル11F国際交流プラザ内	099-225-3279 (099-225-3284)
沖縄県	(財)沖縄県国際交流・人材育成財団	〒902-0064 那覇市東町1-1 沖縄県那覇東町会館7F	098-941-6755 (098-941-6812)

札幌市	(財)札幌国際プラザ	〒060-0001 札幌市中央区北1条西3丁目 札幌MNビル	011-211-2105 (011-232-3833)
仙台市	(財)仙台国際交流協会	〒980-0856 仙台市青葉区青葉山 仙台国際センター内	022-265-2211 (022-265-2485)
千葉市	(財)千葉市国際交流協会	〒260-0028 千葉市中央区新町1000 センシティタワー12F	043-236-8000 (043-238-8550)
横浜市	(財)横浜市国際交流協会	〒231-0023 横浜市中区山下町2番地 産業貿易センタービル9F	045-671-7128 (045-671-7187)
川崎市	(財)川崎市国際交流協会	〒211-0033 川崎市中原区木月 祇園町237-1 川崎市国際交流センター内	044-435-7000 (044-435-7010)
名古屋市	(財)名古屋国際センター	〒450-0001 名古屋市中村区那古野1-47-1 名古屋国際センター内	052-581-5678 (052-581-5629)
京都市	(財)京都市国際交流協会	〒606-8536 京都市左京区粟田口鳥居町2-1	075-752-3010 (075-752-3510)
大阪市	(財)大阪国際交流センター	〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-2-6	06-6772-5931 (06-6772-7600)
神戸市	(財)神戸市国際協力交流協会	〒651-0087 神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館20F	078-291-0641 (078-291-0691)
広島市	(財)広島平和文化センター	〒730-0811 広島市中区中島町1-5 広島国際会議場3F	082-242-8879 (082-242-7452)
北九州市	(財)北九州国際交流協会	〒805-0062 北九州市八幡東区平野1-1-1 国際村交流センター3F	093-662-0055 (093-662-6622)
福岡市	(財)福岡国際交流協会	〒810-0001 福岡市中央区天神1-10-1 福岡市役所北別館5F	092-733-5630 (092-733-5635)

総合的な学習の時間・選択教科に役立つ国際理解教育の手引き
先生が見てきた国際協力の舞台
平成12年度 中学校教師海外研修に参加して

平成13年3月発行

発行者 国際協力事業団

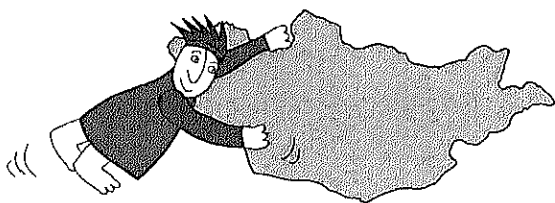
〒151-8558

東京都渋谷区代々木2丁目1番1号

新宿マインズタワー9階

TEL 03-5352-5628 FAX 03-5352-5018

URL <http://www.jica.go.jp/Index-j.html>



総合的な学習の時間・選択教科に役立つ
国際理解教育の手引き

先生が見てきた国際協力の舞台

■平成12年度中学校教師海外研修に参加して■



JAPAN
O.R. of Development Assistance



国際協力事業団